

2. 長崎における成人 T 細胞性白血病とがん登録  
土居 浩 (長崎県南保健所)  
座長: 田島 和雄 (愛知県がんセンター研究所)
- 11:10-12:00 会長講演  
長崎腫瘍組織登録委員会について  
-地域がん登録そして原爆研究への利用-  
関根 一郎 (長崎大学大学院医歯薬学総合研究科)  
座長: 小松原秀一 (新潟県立がんセンター新潟病院)
- 12:00-12:30 総会  
12:30-13:30 昼休み  
13:30-15:00 シンポジウム I  
がん登録資料の活用・成果  
座長: 岡本 直幸 (神奈川県立がんセンター  
臨床研究所)  
三上 春夫 (千葉県がんセンター)
- ①がん患者の受療動態  
津熊 秀明 (大阪府立成人病センター)
- ②がん検診の精度管理  
西野 善一 (宮城県立がんセンター研究所)
- ③長崎腫瘍組織登録委員会資料を用いた被爆者腫瘍の病理疫学研究成果  
中島 正洋 (長崎大学大学院医歯薬学総合研究科)

- ④がん登録を活用した長崎県のがん対策について  
藤田 利枝 (長崎県福祉保健部)
- 15:00-15:30 休憩 (ポスター見学)  
15:30-17:00 シンポジウム II  
九州・沖縄のがん登録の現状  
-各県のがん対策推進基本計画をふまえて-  
座長: 岸本 拓治 (鳥取大学医学部)  
祖父江友孝 (国立がんセンター  
がん対策情報センター)
- ①沖縄県のがん登録の現状  
賀数 保明 (沖縄県衛生環境研究所)
- ②熊本県のがん登録の現状  
中村貴美枝 (熊本県健康福祉部)
- ③長崎県のがん登録の現状  
陶山 昭彦 (放射線影響研究所)
- 17:00-17:15 ポスター表彰、閉会挨拶  
17:15-17:30 ポスター撤去

第 17 回地域がん登録全国協議会総会研究会  
大会会長: 関根一郎  
副会長: 陶山昭彦  
事務局: 長崎大学大学院原研病理 気付  
〒852-8523 長崎市坂本 1 丁目 12-4  
電話: 095-819-7107 FAX: 095-819-7108  
E-mail: f2064@cc.nagasaki-u.ac.jp

## 国立がんセンターがん対策情報センター の Vision 「人材育成」

松田 智大

国立がんセンターがん対策情報センター

がん情報・統計部

国立がんセンターがん対策情報センターが発足して 2 年目を迎えました。当初から、がんサーベイランス機能の使命 (Mission) として「正確で役に立つがんの統計情報を整備すること。」を掲げ、活動目標 (Vision) の一番目は「がん登録の標準化と精度向上を推進する。」、二番目は「がん登録を担う人材を育

成する。」と定めています。

がん登録の標準化と精度向上は、地域がん登録全国協議会の会員の皆様が中心となってその推進にご協力いただいております。第 2 期事前調査 (<http://www.cancerinfo.jp/jacr/publish.html>) の結果からも伺えるように、第 3 次対がん 10 ヶ年開始当初と比較し、確実に前進しています。

「がん登録を担う人材を育成する」ことが、標準化と精度向上と同列で、がん登録の前進に重要な位置づけがされていることは、「人材を養い、有為の人物を蓄え、適材を適所に配するは、資本力以上に大なる財産である。」(野村證券創設者の野村徳七) という

ような考えにも通じます。資本となる財政的予算は不可欠ですが、仮に急に今日多額の予算措置が講じられたとしても、それを有効活用できる人材は一朝一夕に養い蓄えることはできません。

この活動目標を実現すべく、国立がんセンターがん対策情報センターの平成 20 年度研修計画に、昨年度同様、地域がん登録行政担当者・実務者講習会を予定しております（表）。

数年ぶりに再開した昨年度の地域がん登録講習会はいかがだったでしょうか。7 枚組の講義 DVD には面食らった方が多かったかもしれませんが…。教育技術も教材の準備も至らぬ点は多々ありましたが、今年度は、それらの点をできるだけ改善し、12 月 3 日と 4 日、国立がんセンターにて開催いたします。実務者研修の具体的内容は「がん概論」、「ICD-O-3 を利用したコーディング」、「がんの拡がりと進行度」、「多重がんの登録と集約」に加え、行政担当者と共通テーマとして「地域がん登録室における安全管理措置」を加えました。行政担当者向けには、「地域がん登録の基礎知識」的な内容の講義を初め、昨年同様の地域における活用例や都道府県がん対策推進計画におけるがん登録の役割などを話題提供する予定です。内容や実施方法に関してご要望があれば遠慮なくおっしゃってください。

更に、今年度は E-learning を立ち上げることを計画しています。フラッシュをベースとしたインタラクティブなシステム上に、音声、クイズ形式の習熟度チェックなどを組み込んだ構成といたしますので、物理的に国立がんセンターや協議会の研修に参加できない実務者や、日頃の復習用に利用していただければ幸いです。

院内がん登録研修では、新指針でのがん診療連携拠点病院の指定要件を踏まえ、急ピッチで初級者研修、中級者研修と、人材育成事業を進めています。同時に指導者の育成にも力をいれています。院内がん登録研修、さらには地域がん登録全国協議会の総会研究会で開催される実務者研修と共同で、受講者のニーズをカバーできるよう、連携を強固にしていかななくてはなりません。

表 地域・院内がん登録関連研修計画

	研修名	研修期間	定員	研修の目的・概要
地域がん登録	地域がん登録行政担当者向け研修	年1回1日	100人程度	地域がん登録を活用した事業の企画支援。全国の都道府県のがん対策・がん登録担当課職員を対象として実施
	地域がん登録実務者研修	年1回1日	150人程度	地域がん登録実務者を対象とした初級者研修
	地域がん登録標準DBS導入研修	導入前・導入時・導入後の実施指導研修	各登録室の職員	導入前：標準DBSの導入に向けた導入計画対策 導入時：標準DBSIによる登録作業手順の説明 導入後：標準DBSIによる登録作業手順の遵守
地域・院内	E-learning (新規)	随時	通算1000人程度	初級者研修会に準じた内容
院内がん登録	院内がん登録初級者研修	前・後期各2日間 通年で受講	100人程度/回	主要5部位のがんについて、UICCのTNM分類などの病期分類などをコーディングでき、院内がん登録の標準登録様式などに関して十分な知識を有するレベル (すでに登録を始めて、3ヶ月以上～1年程度の実務経験のある者相当) 向け
	院内がん登録中級者研修 (新規)	5日間/回	30人/回	主要5部位以外のUICCのTNM分類などの病期分類のコーディングを行うことができ、また各種癌取り扱い規約の内容も十分に理解するレベル (登録実務1年～3年程度、あるいは登録症例数1000例以上の経験のある者相当) 向け
	院内がん登録指導者研修 (新規)	5日間/回		中級者以上のレベルを有した実務者 (平成20年度は初級者研修修了者) から指導者を育成
	院内がん登録見学研修	月1回 (第3金曜日・半日)	20名/回 年間200人程度	院内がん登録の実務体制の見学
	院内がん登録Hos-CanR見学研修 (新規)	随時	30人/回	院内がん登録支援ソフトの導入、運用ならびに機能について理解することを目的とする。システム開発企業との連携し、講義内容を構成する。

[http://ganjoho.ncc.go.jp/professional/training\\_seminar/training.html](http://ganjoho.ncc.go.jp/professional/training_seminar/training.html)

地域がん登録室の実務担当者が長期間に渡って業務を遂行することが難しい状況では、いくら研修をしても知識や技術の蓄積ができない、とおっしゃる方もいらっしゃるでしょう。もちろん、あまり頻繁に担当

が替わったり、担当者間の十分な引継ぎがままならなかったりする制度に問題はある、対策が講じられることを願いますが、担当が替わっていく中でも、研修を受講し、実務者同士がお互いに連絡を取り合える期間は、「がん登録サポーター」を増やすことができる絶好の機会だと思っています。がん登録の担当をして意義がよくわかった、担当していた期間楽しかった、やりがいがあった、とがん登録の応援をしてくださる方々が増えることには充分意味があるはずです。

地域がん登録の目標と基準 8 項目の、第 3 期基準に

は実務者の研修受講、目標には腫瘍登録実務者を配置すること、という項目を設定しました。こうした基準や目標は、どの程度達成されるのでしょうか。第 3 期が終了し、ポスト第 3 次対がん 10 ヶ年の時代にももちろん、がん登録事業は日本で継続されていることでしょう。10 年後の 2018 年はどうなっているだろう、20 年後の 2028 年は…、と考えれば、このような遠いよう近い将来に日本のがん登録に命を吹き込みつづけるのは、やはり人材なのかもしれません。

本年度のトピックスは、国際がん登録学会 IACR 2010 in JAPAN が 2010 年に我が国で開催されることが決まったことである。神奈川県におけるがん条例も、わが国におけるがん登録法の先駆けとなるものとしてまさに注目される。地域がん登録に携わるものとして、一つの起爆剤となることを願ってやまない。「地域がん登録なくして対策・評価なし」という観点から、がん対策推進基本計画の施行は、地域がん登録の役割と重要性を世に広める意味で大きな意義をもつものといえる。併せて、がん診療拠点病院構想は、院内がん登録の構築を図るのみならず、地域がん登録の届出精度の向上につながる牽引力となったことは否めない。こうしたがん診療の均てん化に対する世論は追い風となっており、国民の関心も深い。しかし、がん登録実施県はまだ 35 都府県に留まっている。いったい何がバリアーになっているのか。本号は、このようなことが念頭にありつつ記事を考え、最新情報をお持ちな方に執筆をお願いした。がん登録も日進月歩で進化しているし、進化していかないといけない。国際的にはがん登録後進国といわれている汚名を返上できるのはいつか??? 2010 年の国際がん登録学会の開催を契機として、我が国のがん登録の変革が現実化されるのを期待したい。(M.O.)

小・中学校の頃は学級新聞を作るのが好きでした。ニュースレターの編集委員の仕事はそれに近いものがあります。個人的には、辻先生による「改正統計法と地域がん登録」の記事中の、「(責任は) 知らなかった側よりも、うまく知らせることのできなかつた側に求めざるを得ない。」を、常に肝に銘じようと意を新たにしました。(A.S.)

### 2008 年 関連学会一覧

9 月 11-12 日	地域がん登録全国協議会総会研究会 (第 17 回)	長崎市 長崎大学医学部良順会館
9 月 22-27 日	Cancer Registry Course in Korea 2008	Seoul, Korea
10 月 28-30 日	日本癌学会 (第 67 回)	名古屋市 名古屋国際会議場
11 月 5-7 日	日本公衆衛生学会総会 (第 67 回)	福岡市 福岡国際会議場
11 月 18-20 日	国際がん登録学会 (IACR) (第 30 回)	Sydney, Australia
1 月 23-24 日	日本疫学会学術総会 (第 19 回)	金沢市 金沢市民文化ホール

発行 地域がん登録全国協議会 Japanese Association of Cancer Registries 理事長 岡本 直幸  
事務局 〒103-0027 東京都中央区日本橋 3-2-14 日本橋 KN ビル 4F  
Tel : 03-5201-3867 Fax : 03-5201-3712  
E-mail : jacr@cancerinfo.jp URL : <http://www.cancerinfo.jp/jacr/>